

## 小学校外国語活動 6 年生部会

### 1 今年度の研究の方向

昨年度の研究では、「小学校外国語活動の目標と目指す児童の姿」「評価」「指導方法・指導体制」「教員研修の方法」「英語のノート題材を生かした指導」について明らかにすることができた。そこで、昨年度までの研究実践をふまえ、小学校 6 年生の最後の単元「将来の夢を紹介しよう」(英語ノート Lesson 9 I want to be a teacher)の単元指導計画と各単位時間の展開プランの作成をした。これは、県内の小学校の先生が、英語ノートを活用して具体的に指導を進めることができることをねらっているからである。また、各時間内のそれぞれの学習活動に評価の観点を明記した。これは、来年度からの完全実施においてどのように評価を進めていけばよいのかと心配する声に少しでも具体的な方向を示すことができないかと考えたからである。また、小中連携を考え、児童が段差なく中学校へ進級できるように、小学校最後の単元を具体的に示すことで、小学校の外国語活動の内容や実態を具体的に中学校の先生に伝えることができると願っている。小中連携を進めるには、小学校と中学校の指導内容を互いに知ることがまず大切であると考えたからである。

また、最後に実践資料として、この単元で活用できるさまざまなゲームの方法も紹介している。指導計画にあるゲームやその他にもできそうなゲームを紹介し、児童の実態に合わせて幅を広げて取り組むことができるようにしている。

### 2 小中連携を意識した具体的な工夫

- ・今までの活動の積み上げを児童自身が感じられるような内容の工夫

小学校最後の単元ということで、将来の夢をスピーチする際に、今まで慣れ親しんできた英語を生かしながら取り入れ、内容が豊かになるようにし、児童が自信をもって進学できるようにした。

- ・スピーチを中学校の先生に見てもらおう

単元の終末では、発表する内容を中学校の先生に実際に見てもらったり、ビデオレターで送ったりという方法をとる。この方法には、児童の意欲を喚起させると共に、中学校の先生に小学校最後の児童の実態を知ってもらうことの両方のメリットがあると考えた。

- ・中学校で学習する表現に慣れ親しむ

自分の将来の夢やその理由をやり取りする表現をビンゴゲームやペア探しゲーム、あてっこゲームなどを通して楽しみながら慣れ親しむことで、中学校での確かな表現を使って夢を語る学習をする際の自信へとつながっていくと考える。

- ・多様なゲームの紹介をして広める

「将来の夢を紹介しよう」の単元の紹介のほかに、この単元で使うことができるゲームを紹介している。これは、小学校の先生に広めるのみでなく、中学校の先生にも知ってもらい、帯活動に活かすなど段差なく入門期の 1 年生が学習に取り組めるようにしたい。